

## 第7回バス共創プラットフォーム 会議録（要旨）

### 1 日 時

2025年（令和7年）12月22日（月）15：30～17：00

### 2 場 所

まなびの館 ローズコム 小会議室3 福山市霞町一丁目10番1号

### 3 出席者

#### (1) 委員（18名）

神田佑亮委員、鈴木春菜委員、大畑友紀委員、宇田雅英委員、神原昌弘委員、石川 亮委員、吉本伸久委員、富田直也委員、山口晃弘委員、久保辰己委員、小野裕之委員、藤原慎委員（代理）、橋本敬治委員、佐野公章委員、今井宏委員、柴田益良委員（代理）、行迫孝治委員、難波和通委員

#### (2) 事務局（6名）

#### (3) 傍聴者（10名）

#### (4) 随行者（2名）

### 4 会議の成立

委員18名中、代理出席を含め18名出席で、委員の過半数が出席しているため、バス共創プラットフォーム設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立。

### 5 内容

#### (1) 説明内容

- ア 利用者拡大実証事業（中間報告）について
- イ 今後の利用促進策について

#### (2) 意見交換

### 6 資料

- ・ 次第
- ・ 第7回バス共創プラットフォーム資料
- ・ 路線バスの増便・新路線の実証実験チラシ
- ・ 路線バス100円2ウィークスチラシ

### 7 協議内容

#### (1) 開会

#### (2) 説明内容

- ア 利用者拡大実証事業（中間報告）について
- イ 今後の利用促進策について

- ・ 事務局から第7回バス共創プラットフォーム資料の説明を行った。

### (3) 意見交換

#### ア 利用者拡大実証事業（中間報告）について

- ・ 大谷台線の増便については、SNSやHPなどで周知したが、利用が伸び悩んでいる。周知不足も考えられるが、金曜日の夜間の増便については、飲み会の帰りとしては少し時間帯が早かった。現在の終便の更に遅い時間帯の増便等、もっと工夫が必要であったと思う。
- ・ 多治米車庫線については、金曜日の夜間1便のみの増便であったため、利用者は分かりづらかったのではないと思う。今後は、乗務員の調整をしながら、金曜日だけでなく、平日全体を増便する等の検討が必要であると思う。
- ・ 福山市民病院線については、利用者数は増えているが、想定を上回っていない。患者の年齢層、時間帯等の情報を福山市民病院からもらいながら分析を進めていくことが必要であると思う。
- ・ 鞆未来トンネルの開通で、阿伏兎観音への観光利用が徐々に増えており、いかに鞆町と沼隈町をつなげるかが課題である。新路線の利用者数は、まだ多くないが、福山駅から鞆町（鞆線）、鞆町から沼隈町への動線を強化していきたいと考えており、実証実験終了後も運行を継続していきたいと考えている。
- ・ 全ての路線に言えることであるが、1日あたりの利用者数は増えているが、1便あたりで比較すると物足りない結果となっている。
- ・ 3ヶ月の実証実験では、周知にも限界があるが、ターゲットにしっかりと情報が届くように、情報発信方法も工夫していく必要がある。
- ・ 今後は、福山市民病院や観光地等の目的地と連携した取組を検討していく必要があると思う。
- ・ 路線バスに乗るきっかけづくりとして、昨年は「路線バス運賃無料ウィーク」、今年は「路線バス100円2ウィークス」と実施してきたことで、福山市に続く自治体も出てきている。バス利用の間口を広げる取組は、今後も継続していく必要があると思う。
- ・ 「路線バス100円2ウィークス」の期間中に、子連れの家族の方が短い区間であったが利用されており、通常料金なら乗らない乗り方であったと思う。
- ・ 100円2ウィークスは思ったより利用が少ない印象。昨年ほどのインパクトはないのかもしれない。
- ・ 前回のプラットフォームで路線バスのPR動画を作成したらどうかという意見があり、福山大学の学生が作成した。「路線バス100円2ウィークス」の周知に合わせて、バスの乗り方を紹介している。学生が主体的に動き、よいものができたと思う。各団体のSNSやHP等、様々な媒体で発信していきたいと考えている。
- ・ 「バスの乗り方」や「時刻や経路、バス停の検索方法」が分からないという意見は多く聞くので、様々なパターンの動画を作成して発信していけるとよい。
- ・ 観光地の紹介も含めた、目的地別の動画があると、バスで出かけてみようという気持ちになるかもしれない。気構えなく、軽い気持ちでバスに乗ってもらえるようにしていくことが大事。
- ・ GoogleマップやBus-Vision等でバスの情報は入手することができるが、普段バスを利用しない人は使い方が分からず、使いきれしていないと感じる。使い方を動画で表現すると分かりやすいと思う。
- ・ 福山駅前バス案内所は、チケット売り場の要素が強いが、案内所でバス情報の調べ方の周知を強化することも必要であると思う。
- ・ この取組は普段バスに乗らない人に、バスに乗るきっかけをつくることを狙っている。乗り方が分からない人もまだまだ多く、基本的なところから丁寧に伝えていくことも大事である。

#### イ 今後の利用促進策について

- ・大きく分けると「長期的にやること」と「スポット的にやること」の2つがあると思う。また、ターゲットを明確にすることも必要であり、例えば学生をターゲットにするのであれば、学生向けの割引制度がある。夏休みや冬休み等の長期休暇期間限定で、学生は安く乗れるキャンペーンをすることで、子どもの頃からバスに慣れていくことができる。他にも、小学校や中学校等と連携して、授業の一環で路線バスに乗る体験をすることや、イベント的に市で体験会を主催することも考えられる。その様子を学生に動画撮影してもらい、楽しそうな動画を作成してもらうのもよい。まずは楽しいと感じてもらうことが大事と思う。
- ・一般的に通勤定期は会社が負担するが、通学定期は自己負担（親）となる。物価高の中で、この負担は大きく、一部でも支援ができれば、通学定期の利用が増えると思う。
- ・子どもや若い世代を大切にすることで、子育てに優しいまちという都市のブランディングにもつながる。
- ・バスの情報が分かりにくいとの意見が多く、パターンダイヤが導入できれば、時刻表を見なくても乗車できるようになると思う。また、パターンダイヤであれば、1便乗り遅れても次発がある安心感がよい。幹線については、10～15分毎に運行していることが理想的である。
- ・両備グループ（中国バス、井笠バス）では、バスに乗ること自体を目的とする取組を行っている。福山市ならではのバスを作り、乗ることが目的となる取組もよいと思う。
- ・まわろーズを再編するのもよいと思う。現在のニーズに合ったルートや停留所に変更するとよいと思う。
- ・路線バスを利用することは、交通渋滞の緩和や環境問題に寄与するので、路線バス利用者にポイントバックする制度を導入するとよいと思う。
- ・運賃無料ウィークや100円2ウィークスでは幅広く利用者を増やすという趣旨があるが、今後はターゲットを絞る必要も出てくる。
- ・スタンプラリー等、イベントを企画して路線やダイヤを知るきっかけをつくるのもよいと思う。スタンプをするだけでなく、人との関わりを担保したい。付加価値をつけて企画するとよいと思う。
- ・福祉の取組として、地域内のコミュニティ的な移動支援を行っている。それとバス路線との接続ができていればいい。今は移動が地域内で完結してしまっている。地域内移動とバスが連動していれば、遠くに行きたい人も利用できる。
- ・北産業団地ができて周辺では交通渋滞も起きている。バス通勤している企業への補助金などの支援ができればと思う。
- ・バス利用者に、旅館やホテルの割引やイベントでの割引等の特典を与える取組ができればと思う。
- ・新規利用者を取り込むことを考えたときには、行きたい場所への行き方やダイヤなど必要な情報が一箇所で見れることが使いやすさにつながる。
- ・鞆の新路線については、現在、沼隈町の道の駅の再整備が進んでいるので、この動きも見据えながら検討をお願いしたい。
- ・鞆町の狹隘道路を運行する路線に、マニアの人がわざわざ乗りに来ている。このような人たちは様々な乗換を駆使していろいろな方面に行っている。こういったマニアの人たちの情報が拡散すると面白い。
- ・テレビや映画の撮影で使われるとよく利用される。変わった切り口が当たることもあるが積み重ねが必要になる。
- ・単独では発信できないので他者とのコラボが必要。地道に進めることもあるが発

想の転換が必要な場合もある。

- ・ 仮に来年度も100円ウィークをやるのであれば、実施時期を早めに公表してそれに向けて取り組んでいく空気感をつくる必要がある。
- ・ 100円2ウィークスはきっかけづくりということであるが、無料なら乗るけど定期的な利用に繋がらない人たちをどう巻き込んでいくかが大事。
- ・ スペインのある地方都市では10回分の回数券を2回分くらいの料金の販売している。定期券を買うほどではない人たちに向けた取組だと思う
- ・ 買い物や通院で使う人の利便性を高めていくことが必要だと思うが、そういった層の人たちにどう届けるかも考えないといけない。
- ・ 事務局案のプレミアムフライデーに合わせて、最終便の1つ前あたりの時間帯に増便できれば効果が出るかもしれない。
- ・ 広島市ではシティパス（定額乗り放題）を販売して、中学生など若い世代に乗るきっかけをつくっている。夏休みなど需要が落ちる時期に人を動かす工夫も必要。
- ・ 車内で飲食を楽しめる取組があるとよい。海沿いなど車窓を楽しむことができ、バスに乗ることが目的となる。
- ・ バスの問題を自分ごととして思っていない。学校の教育の中でプログラムを埋め込むことができればと思う
- ・ 家族連れをターゲットにするのがいいと思う。小さいころから乗ってもらうことが裾野を広げることにもなると思う。中学高校の通学時にバスを利用できる環境づくりができれば、家庭内でもバスの話題が広がると思う
- ・ 車内シートの色、いろいろなデザインがあったほうが乗るのが楽しい。新幹線ではアニメキャラのラッピングをしている。バスは新幹線よりもリーズナブルに乗車できるので、利用増加につながる。インバウンド利用が増えれば外国語の表示などユニバーサルデザインの導入も進む
- ・ 小さい子ども向けのイベントを定期的に車内で行うのがいい。小さいころからバス＝楽しいことという意識を持ってもらうことが必要
- ・ 小学生の頃にバス通学をしていて行動範囲が広がるので楽しかった。バスが生活に結びついていて。バス停の名前が地域の歴史や成り立ちなどと関連していることもあるので、小学生がまちのことを広く知るフィールドワークとバスがつながれば、まちへの愛着が沸くきっかけにもなると思う